



2015年特別号 2015年5月15日
東洋英和女学院大学図書館

WELL 教員インタビュー 第4回 岡本浩一先生

WELLの学生4名が、岡本浩一先生にインタビューをしました。

毎週40冊の本を読む岡本先生ご推薦の「大学生のうちに読むべき3冊の本」とは？

大学時代に理科系から心理学に進む決断をしたきっかけとは？

自分に向いている分野、自分のなかにある才能を見つける方法とは？

岡本先生のシンプルで強い言葉が、皆さんのこれからをきっと応援してくれます。

春からの新生活の始まりに、ぜひお読みください。

◎岡本先生

●WELLメンバー：人間科学科3年の大豆生
田茉莉花さん、森沙弥佳さん、人間科学科2
年の松田葉月さん、丹羽晶子さん
(学年はインタビュー当時のものです)

●今日はお忙しい中ありがとうございます。
事前にいくつか質問を用意しましたので、順番
に聞いて行きたいと思います。どうぞよろしく
お願いします。

●先生は色々な分野のことにお詳しいと思
いますが、私自身も色々な分野の本を読みたい
と思っています。未開拓の分野の本を読む時
に最初に注目すべきこと、大切なことって何で
しょうか。

◎あまり未開拓の分野の本は読まないです
けど、私の場合は、ざっくり3つほどのジャンル
に分かれていて、一つは心理学。心理学の仕
事をしているものですから。もう一つは、茶道
関係の本を読みますね。そしてそれ以外に、
世の中っていうかな。例えば、この問題は法

律的にどうなっているんだろうとか、まあニュー
スとかテレビとかをみて世の中に関心を持っ
て読むことがありますよね。未知っていうこと
だとそこが比較的そういう感じかと思いき
けど。本を読む時に注目していることっていうの
はやっぱ、ちゃんとした本かどうかということ
ですよ。例えばお茶だと、骨董品ってあるよね。
ものすごく高い。偽物もあるんですよ。偽物も
本物に見えるように作っているわけ。それを見
抜くかどうかっていうのはかなり大事で、例
えば200万で買ったものが200円の価値し
かない、そんなことはしょっちゅうあるわけ
ですよ。本も似ているけど、作った人の態度
がおかしいと思うものは読まない。

●なるほど。

◎おかしいと思うものは途中でやめるかな。
また例えですけど茶道の場合ね、僕もだい
ぶ痛い思いもしたので、箱とか見分ける方法
があるわけ。「たぶんおかしい」ってね。絶対
におかしいものはすぐ分かるんだけど、ち
よっと微妙に悪いなっていうものがある。本
も似ていて、この本はおかしいでしょと分
かる。要するに、

全部読んじゃってからおかしいと思っても時間を使ってしまったら同じですよ、お金を使って買ったのだし、ちゃんとした本を選ぼうっていうのはありますよね。

ちゃんとした本の選び方にはコツがあります。著者が誰かはっきりしているということ。それから著者の肩書がちゃんとしているということ。例えば、僕らの領域では心理学研究者というのはダメですよ。

●(笑)

◎そういうのはダメですよ。お茶なんかでも。茶道研究者とか、お茶をちゃんと習っていたら地位があるわけだから。ちゃんと胸を張って言えるような肩書を書いているか。肩書が全然ないのはいいんですよ。司馬遼太郎とか肩書がないからね。わざわざ小説家司馬遼太郎って書かないからね。だけど要するに著者がちゃんとした人かどうかで、ちゃんとしている人とちゃんとしてない人っていますよね。学者が書いたものだと経歴をみて、どこを何年に卒業してって自然に納得できる経歴の人かどうかということが大事ですよ。

それから目次をしっかりと見る。本の内容っていうのは目次をしっかりと見ると、それだけでたぶん本全体の25%くらいはわかる。だから目次の流れみたいなものがおかしいっていうか、滞っているものはダメですよ。

●なるほど。

◎それから、文体に無理がないっていうか。人間って断言できないことを断言しようとするとか文体でごまかしたりするわけですね。だから文体が淡々としているかどうかとか、その読み手の立場に立って書いている本と書いてない本とがありますよね。まあ、読み手を誰と想定しているかによりますけれども。専門家同士の本っていうのもありますからね。それはいいけれど、とにかく読み手をちゃんと想像して、例

えば初心者向けに書いてある本だったらそういう風になってなきやいけないし。

…とかいうことが一貫しているかどうかということが大事かなと思いますね。

●先生は情報を得るためにしか本を読まないのですか。例えばシェークスピアなど、物語は読まれないですか。

◎小説は読みますよ。

●イメージにないです。(笑)

◎楽しむために。

●どのようなものを読まれるのですか。

◎司馬遼太郎はほとんど全部読んでいるかな。

●歴史ものですか。

◎歴史ものっていうか、司馬遼太郎は司馬遼太郎の世界だからね。あの人の解釈だから、好き嫌いあると思いますよ。あと、山崎豊子は相当読んでいると思います。

●骨太系ですね。(笑)

◎吉本ばななも大分。

●意外です！

◎村上春樹も読みますよ。一番最近『1Q84』を読み始めましたけど気に入らなかったからやめました。英語のものなんかも読みますね。英語が好きだから。

●私、外国文学というものが苦手なんですけれども、自分でもなぜ苦手なのか。

◎それは語学力がないからでしょ。

●それもそうなんです。(笑) 翻訳されたものを読んでも苦手で。

◎翻訳はつまらないですよ。

●全然違いますか？

◎英語のものについて言うと、もう相当良い人が訳した場合でも、元のもの香りというか、そういうものがずいぶん失われているよね。それは自分が本を書いてみたら分かるけど、

小説であっても小説でなくても、優れた書き手ってというのは自分の内容を伝える時に、なんていうかな、それなりの格調が出てくるものなのよ。言葉遣いに。例えば、僕が書いたお茶とか心理学の本をお読みになると僕自身の格調の高さというものが分かるわけなんです。ちょうど先週本を一冊終えましたけど、括弧にするか括弧の後に点をいれるかだけで、編集者と散々どうしようって考える。最後もう手を放した後に、「そのページだけもう一回ファックスで送ってくれる？」って。点の位置だけよ。(笑)それで、やっぱりこれだよな～とか言って決めるわけよね。だからものを書く人ってというのはそこまで考え抜いて書いているものなの。僕なんか、前書きとか後書きとか最後に書くじゃない。そんなのは暗記しているし、改行の位置まで覚えています。

●おおー。

◎例えば電車でふっと思いついたことを編集者に電話して、「あのさ、あそこをこうこうすると、改行が一行増えちゃうだろう」とか言って、「ああ、そうですね」って言って、「じゃあ、このカタカナだけポイント落としたり何とかなるかもしれないね」って。それくらいもう写真で撮ったみたいに入っているものなのよ。

司馬遼太郎もそうだと思うよ。司馬遼太郎の文体も極めて個性的ですよ。さーっと流し読んでみると個性的に見えないかもしれないけれど、声に出して読んでごらん。ものすごく個性的だから。滅多に到達できない美しい、彼なりに美しい文体なんです。楽しむために本読むっていうのは歌と同じでその人の調子を読むっていうのかな、そういう面ってあると思うから、訳したらつまらないと思う。

●なるほど。じゃあぜひ英語で。みっちり勉強して。(笑)

◎例えば、英語で「I love you.」「I love you, too.」

って習うとするでしょ。これなんか普通に日本語にならない。日本人は「愛している」なんて言わないでしょ。「愛している」なんて嘘に決まっているんだから。(笑)

●ええ！！(笑)

◎もっと大事なことは、英語の場合、「I love you.」っていうのは、もともと最初に誰から言われるかって、お母さんから言われるんだよね。家族同士で言っているわけ。だから向こうの人が恋愛して、本当に好きな人に「I love you.」っていう言葉を向けるというのは、実は、お母さんに言ったり言われている範囲の中に相手の彼氏なりを入れるっていうことだから。そういう言葉は日本語にはないんだよ。「I love you.」っていうたった 3 語の言葉でもないんだよ。

●そうですね。

◎例えば自分の子どもに「OK, Sweetheart.」って言うんだよ。「Sweetheart」って君たちは恋人にしか使わないと習ったかもしれないけど、「Sweetheart」ってまず小さい子どもにしか使わないわけ。兄弟でも 6 歳から 10 歳離れていると使うかも分からないけどもね。それで例えば、昨日、夫婦喧嘩かなんかしてさ、朝起きて行ってくるねって懨然としている時に「OK, Have a good day, Sweetheart.」って言った瞬間に、許しているかもしれないっていう文脈がその言葉の中にあるわけだよ。

●なるほど。それは分からないですね。

◎そういうようなことは他の言葉に訳してしまったら、言葉の香りっていうものがわかんなくなっちゃうから。言葉の遊びの面白さっていうのが分かんないわけよね。

●先生、仰っていましたよね。聖書の内容をしつかり頭に入れておけば、異文化の人と会話する時に聖書の軸がしつかりわかるって。

◎それはもちろんですよ。どれか一つの福音

書でいいから英語できちんと読んでおくといひですよ。

◎昔、学生の時にアルバイトで映画の字幕をつけるバイトをしていたんだけど、一緒にバイトしていた人と「I love you.」っていう訳に大変苦労していた。初め男が「I love you.」っていうて、後に女も「I love you.」というんだけど、何故か全体を大阪弁に訳している。

●(笑)

◎一つ目を「愛してんねんっ」って訳して、二つ目を「あんたアホやろ！」って訳していた。すごいと思った。僕は大阪出身だけど、大阪って本当にその通りで、馬鹿とアホは違うんですよ。アホの方が親しい。例えば子どもが模擬試験でものすごく良い成績をとったとしたら、「あんたアホやろ！」と言って褒めたりするんだよね。僕は、大阪出身なのにそんな訳思いつかないから、もうこのバイト辞めようと思ったね。

●見たいですね、その映画。なぜ関西弁だったかってところも気になりますよね。(笑)

●大学生のうちに読んでおいたほうがいい本などありましたら、3冊程教えて頂けますか？

◎ものすごくたくさんあるんじゃない？そんな3冊なんてとても絞れないよ。

●学生時代に先生が読んだ本で、心に残っているものがありましたら。

◎だって、僕が読んでた本の量は週に40冊くらいだったし、今でもそれは変わらないけど。だからその中から3冊あげるの難しいよね。でもやっぱり聖書は読んでおくべきだよ。聖書は、対訳の小さいのを持ち歩くと、ちょっとした空き時間にちよこちよこ読めるからいいと思うよ。将来外国の人と一緒に働く時にちょっとしたジョークが言えたりするしね、「サマリヤ人みたいなやつだなあ」とか。

●(笑)

◎そうねえ。聖書に並ぶ3冊。

『古今和歌集』かな。『古今和歌集』は偉大ですよ、英語訳だって複数出ているし。日本の文化の根幹を築いたものだしね。季節感とか恋愛観とか、カビが生えたものだと思っているかもしれないけど、読んでみたらいいよ。艶かしくて涙がでちゃうよ。自分のものとして感じている恋愛感情の苦しさとか切なさとか喜びとか、そういうものが昔の人も全く同じで、そこら辺からため息が聞こえてきそうなのもある訳ですよ。人間の恋愛感情っていうものが人という中でずっと変わらずにある、恋だけじゃなくてね、左遷された時の歌とか離別した時の歌もあるけれど。人の中でずっと生きている、感情が凄いですよ。

『古今和歌集』を勧めるのはこれがピークで、ある程度良いものとしたら、『千載和歌集』もあるんだけど、絶版になっちゃって。そういうのを読んでみると心が落ち着いたりするんだよね。言葉の索引があるから自分が感じた感情を調べてみて、こいつが憎いなと思ったら昔の人が人を憎んだときにどんな歌を詠んでいるのかなと思って調べてみたり。(笑)この『古今和歌集』や『千載和歌集』には、世界中の人間が持つだろう情動のパターンが網羅されていると思うんだよね。

僕が『千載和歌集』が好きなのは、平家と源氏が戦い始める頃のものなんだけど、平家は負けるって分かっている、その頃の武士の人たちは勅撰和歌集に自作が残れば死んでもいいと思って戦いに行くんです。戦いが鮮明だから、『古今和歌集』と比べて少し男っぽいんだけど、岩波の『千載和歌集』は良く出来ていますね。『古今和歌集』読んで良いつて言った人には、『千載和歌集』を勧めます。みんな良かったって言うよ。

ん一、あと3冊目だよな、3冊目選べないな。

●『古今和歌集』が読みたくて『古今和歌集』を読まれたのですか？それとも岩波文庫かなにかを全部読んで、『古今和歌集』に巡り合ったのですか？

◎僕は潰し読みとかしないから。潰し読みしても間に合わないからね。本が多くて。学者に関して言うと潰し読みをされていて優れた学者っていうのはあんまりいませんね。全集を読んでもあんまり意味ないかな。

『芥川賞全集』は読んだけれど、それも僕の専門外の領域ですしあまり全集を読むっていうのは良くない読み方ですね。全てが良い作品と言うわけではないからね。

高校生の時に英語でサマセット・モームを全部読みましたけど、良くないのだからありますからね。

●先生にとって読書とはどのようなものとして考えていますか？

◎人間は一般的に、読むことっていうのは生きることそのものじゃないですか。仮に誰かにもものすごく腹が立った時、自分が本の中で知っている怒りとか事例と比べて、これはもっと酷いと。本の中で自分の据わった基準とか、価値判断とか、そういうものを離れて生身の人生の出来事の評価をすることは僕にはあまりないですね。

●今は電子版で読めるものが増えてきていますが、その点についてはどうお考えになりますか。紙へのこだわりは？

◎使っていますよ。Kindleとか。

Kindleの良いことは軽いことだよな。随分の本がえらいページで入っていますよ。だけど、これだけで持って行けるじゃない。旅行とか行く時に、例えば2泊3日だと、どういう時に何を

読みたくなるかというのは予想しがたいわけよ。これを読もうと思って持って行っても、ちょっと難しすぎて疲れちゃって、他のものも読んだりとかいうことがあるわけでしょう。

今はKindleに放り込んで、とりあえず持って行けば、まあいいかなと。だから僕は『古今和歌集』も入っているし、そういう大事だと思うものは全部入っている。



●先ほどのお話ですけれども、旅行先で本を読みたくりますか？私だったら旅行に行ったら、その旅行先の物事を楽しみたいと思ってしまうんですが。

◎僕はドイツに行っていたって、ホテルで心理系の本を読んでいたりするんですよ。

●え！ドイツを楽しまないんですか？街に繰り出さないんですか？

◎いわゆる観光っていうものは、あんまりしないんですよ。私は写真を撮るのは好きで、上手だから、自分が泊まっている周辺で、川べりとかで良いところがあったら写真撮ろうとか、そういうことはするけれど、どこそこ行こうとか、リストをつぶしていくような観光の仕方というのは基本的にしないですね。

だからどこへ行っても、そこで自分の考えたことが大事というか。

●なるほど。では国名を聞くと、あの時あいうことを考えたとか。

◎そう。だから何の本を持って行ったか覚えて

いますよ。あの旅行でこの本をついに読み終わったんだよとかね。

●そういう感じなんですね、旅行と本がリンクする。お茶の本も読んだりしますか？

◎お茶の本は必ず持って行きますね。お茶と将棋の本は必ず持って行きます。Kindle には、書いてはいけない点前のメモがいっぱい入っているんですよ。でも、Kindle に出力できるプリンターで自分のお茶のノートが入っているから、僕のお茶ノートなんて持って歩いたらこんなにぶ厚くて重たいけれど、Kindle はこんなに軽いし全部入っているし、検索がきくから。

●検索できるというのは大きいですね。お茶の本だけではなく、将棋もですか？

◎将棋は子どもの時にプロになろうかと思っ
ていたくらい、ものすごく強いですよ。普通の
人では考えられないくらい。

●将棋は究めなかったんですか？

◎才能がね、プロになるほどではなかった。
残念ながら。

●先生はなぜ心理学をやろうと？

◎他のものよりは才能があると思ったからね。
もともと東大で僕は理科系だったから。それで
ノーベル賞を取ろうと思っていたんだけど、何
ていうのかな、才能あると思っていたんですけ
どね、東大に入ったら桁違いの人がいっぱい
いるんですよ。才能が。彼らとずっと競争して
いくのはちょっときついなど。研究というのは実
は競争なんですよ。僕の方が成績は良かった
んですけど、彼らの方が勉強時間が短いん
ですよ。僕はすごく勉強したんです。

本当に忘れられない出来事がある。彼は東
大教授になったけど。長野の山奥から出てき
て、大学2年生くらいになっても全然方言が抜
けないわけ。

微分方程式というものがあるんだけど、僕は

試験の前には大丈夫にして、いつでもこいっ
ていう状態。で、彼が、「岡本、俺ここんところ
分からないから教えてくれないかな」って。そ
れで見てやったら、何にもわかっていないの。
「お前、明後日だよ、試験」って。「どうするかあ」
と言うので、教えてやったわけ。2時間くらい教
えてやったのかな。でも手ごたえが薄いわけ。
「わかった？」って聞いても「わかったかわから
ないか、わからない」って。それが2日後の、
試験の直前に、席が近いので見ていたら、2
日間で僕よりできるようになっていたの。

●そういうものなんですか？

◎微分方程式なんて、僕なんか多少暗記しな
いといけない部分があるわけだよな。でも彼
がさ、「僕は暗記しない」って言って、暗記して
いる様子もなく解くんだよね。

で、「何でここからこう解けるわけ？」と聞くと、
「えー、だって関数形みていると、何か原関数
が浮かんでくるだろう」って。浮かんでこないか
ら(笑)！そういう人がいるんだ、他にも。

こういう人たちと一緒にやっていくのはきつい
だろうと。こっちは年もいっているし、浪人とか
したから。やっぱり数学なんて若い方が有利
だよな。感覚がね。で、もう止めようと思って。
言葉でもさ、僕は英語ができると思っているわ
けじゃない。そうしたらさ、そこに行ったことも
ないのにアラビア語ができるようになった人が
いるんだよ。

●(一同)えー。

◎わけが分からないわけ。何なんだ、これは。

●ちょっと気持ち悪い(笑)。

◎僕の子だって、東大卒業した時には、英語
圏とフランス語圏にしか行かせていないのに、
スペイン語やポルトガル語とかが普通に話せ
て、普通に聞けるんだよ！「何で？」と訊いた
ら、卒論でポーランド語の映画を見ないといけ
なかった。で借りてきたら字幕が付いていなか

ったからって。

映画なんて、もとの言葉の香りがあるから、やっぱり言語ができないとダメなんですよ。

だから、そういう人たちがいるから、ちょっと…これは世界を間違ってしまったかなと。それで、いろいろ考えて、何が向いているのかなと、自己発見を試みたら、心理学なら行けるかも分からないと。

●心理学を目指されたのは東大のどの時点ですか？

◎決めたのは2年生の8月くらいかな。理系から文学部に進学するのは全体で10人弱くらい。競争試験なんだけど、要するに成績のいい人が変えられるわけ。だから、あんまり才能がないとそれもダメですけど、それは歯を食いしばって頑張っただけの成績を取って。

●自己発見って、私にはできません。自分が何に向いているか、何をすべきかというのは、どうやったら分かるんですか？

◎それは本を読むんです。本を読んで、面白いと思うかどうかとかね。理系にいたでしょ。理系にいと、やっぱり理系に向いている人というのは、わくわくしながらあの数式を見ているんですよ。

●先生は違ったんですか？

◎僕もそれなりにワクワクしましたよ。それなりにね。僕は統計学は割と強かったんだけど、統計学はやっぱり面白いよね。向いている分野は読むスピードが違う。さっき言った彼は、2日で2か月間の僕の勉強に追いつくわけですよ。それは才能があるんですよ。

何でもそうなんです。自分に才能があるかどうかというのは、基本的に2つなんです。読むということについて、スピードがつくかどうかということと、それをやっていて飽きない。疲れ

ない。あんまり克己心がいらないうこと。

だから、心理学以外にも才能がありそうなものはありましたよ。経済学とかね。でもどれも大体、数式を使って、社会科学的なことをやる分野がどうやら良さそうだなと思って。

やはりたくさんものを読んでいてということが大事で、平均的なものを読んでいて、自分の適性に合ったものにあたると、もっと早く読めるわけ。もっとすいすい読めるし、そこからいろいろな発想をするわけですよ。こうやったらどうなるんだろうって。自分を発見するために読むということが一番近いと思いますよ。よく自分探しかいじゃない。自分探して例えば恋愛するとか、あるいはアルバイトするとか、良いと思いますよ。でも、それは結局自分ひとりの体験しかできないということですよ。そういうふうにするには人生は短すぎるんですよ。例えばそこで本を読むとそこでさんざんいろんな経験をした人が、自分なりにほどほどに抽象化したことが書いてあるから情報としては効率がいいわけですよ。そういうことだと思うよ。

●先生は幼いころにお母様からとか読み聞かせとかして頂いたことがありますか？

◎僕の母親はあの年代では珍しく結局一生仕事した人なんです。それで僕のところには乳母がきていたんです。小学校4年生くらいまで、その方が育てて下さったんだけど、毎日決まった時間に読み聞かせをしてくれた。それがね、アデペンちゃんっていう本なんだけど。小説なんですよ、池袋を舞台にした。

●池袋で！？アデペンちゃん！？

◎何年前にアデペンちゃんの本を見つけてね。インターネットで。見つかるかなと思って、“アデペンちゃん”って検索したら出てきたわけですよ。それでそれを買って。

だから、『古今和歌集』を読み聞かせてくれた、
そういう由緒正しいものではないけど、読み聞
かせはその方からたくさんしてもらいました
ね。

●それは先生の人生に影響を与えましたか？

◎それについてはあまりなかったかな。(笑)

ただ子どものころから絵本とかはたくさん読む
子だったから。君たちはこれからお子さんに読
み聞かせをするわけです。読み聞かせほど子
どもの役に立つことはない。それは知能だけじ
ゃないんです。愛情がなかったら読まないわ
けでしょ。だからお母さんの愛情が向かって読
んでいる。

実験ありましたよ。お母さんが子どもに向かっ
て対面で読んでいるのと、対面で向かって読
んだのを録音したのを、同じ子どもと同じお
母さんで脳波を調べるの。実際に読んでいる
時は、子どもの気持ちもタイミングも正確に捉
えて読むじゃない、そうすると脳の興奮状態が
全然違うんだよね。僕は e-learning も積極的
にしているけど、やっぱり生の授業が大事だ
とっていて、「心理学概論」みたいな人数の多
い授業でも乗ってきている子って分かるわけ。
何度かすると。うなづきのタイミングだけを媒
介にした交流ってあるわけよ。先生の愛情を
感じるでしょ。どの授業を受けてもね。そうい
うものの一番原始的な形っていうのはお母さん
が子どもに読むっていうことだからね。

◎僕は自分の子どもにはものすごく読み聞か
せをしましたよ。イスラエルの本でトイレレ
ーニングの本があって。トイレレニングがうま
くいかない時があるでしょ、「でたかな?」「まだ
まだ」「でたかな?」…これがずーっと。(笑)
トイレレニングが負担になっている子は
とても喜ぶけれど、読む方はクリエイティビ
ティを要求される。(図書館注:アロナ・フランケ

ル 絵・文『うんちがぼとん』アリス館, 1984)

『ぐりとぐら』も暗記するくらい読みました。

妹が生まれて不愉快っていうお話もあった。お
母さんをとられるのがつらいんですよ、それも
イスラエルの絵本。(図書館注:アロナ・フラン
ケル 絵・文『ぞうのまあくん』アリス館, 1984)

◎大学生の時読むべき本、3冊だったらあれ
だ。本田勝一の『日本語の作文技術』これは
長く売れているんですよ。最初買ったのは
高校生の頃だった。私の基礎ゼミではこれを
読みます。これは何回読んでも、僕のように本
を書くという仕事を持っても、発見がある。
この本はよく書けています。

●本日は本当にありがとうございました。



◇◇ 謝辞 ◇◇

この『図書館だより』を発行するにあたり、
人間科学科松田葉月さん、本間りさ子さんに

テープ起こしを担当して頂きました。

お二人のご協力に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

大学図書館司書: 青山・池上